

6 ロジックモデル及び評価指標一覧
 (1) ロジックモデル

A：分野別アウトカム（分野別目標）		番号	再掲	指標
がんを予防し、早期発見・早期治療で、がんで亡くなる人を減らす		1		がんの年齢調整死亡率（75歳未満 人口10万人対）

B：中間アウトカム（個別目標）		番号	再掲	指標
がんの発生リスクを下げる生活習慣の普及	1			がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（胃）
				がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（肺）
				がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（大腸）
				がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（女性乳房）

B：中間アウトカム（個別目標）		番号	再掲	指標
20歳未満の者の喫煙防止、喫煙率の低下及び受動喫煙の防止による、がん罹患率の減少	2	再掲		がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（胃）
		再掲		がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（肺）
		再掲		がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（大腸）
		再掲		がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（女性乳房）

C：分野別施策		番号	再掲	アウトプット指標（施策目標）		
①食生活・身体活動・飲酒等生活習慣の改善	1			食塩摂取量の減少（20歳以上）		
				野菜摂取量の平均（20歳以上）		
				運動習慣（週1回以上）のある者の割合（20-64歳、男性）		
				運動習慣（週1回以上）のある者の割合（20-64歳、女性）		
				運動習慣（週1回以上）のある者の割合（65歳以上、男性）		
				運動習慣（週1回以上）のある者の割合（65歳以上、女性）		
				生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合（男性）1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上の割合		
				生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合（女性）1日当たりの純アルコール摂取量が女性20g以上の者の割合		
				肥満者・やせの者の割合（%）（20-60歳代男性の肥満者）		
				肥満者・やせの者の割合（%）（20-30歳女性のやせの者）		
				食の健康づくり応援店の店舗数		
				日常生活の平均歩行数（歩）（20-64歳男性）		
				日常生活の平均歩行数（歩）（20-64歳女性）		
				日常生活の平均歩行数（歩）（65歳以上男性）		
				日常生活の平均歩行数（歩）（65歳以上女性）		
				小中高等学校及び特別支援学校におけるがんを含めた健康教育の実施数		
				特定保健指導の実施率（全保険者）		
				保険者とともに健康経営に取り組む企業数		
		②たばこ対策	2			小中高等学校及び特別支援学校における防煙教育の実施数
						20歳未満の者の喫煙率
				禁煙治療を行っている医療機関数		
				禁煙支援薬局数		
				喫煙率（全体）		
				喫煙率（男性）		
				喫煙率（女性）		
				妊娠中の喫煙率		
				受動喫煙の機会を有する者の割合（行政機関）		
				受動喫煙の機会を有する者の割合（医療機関）		
				受動喫煙の機会を有する者の割合（職場）		
				受動喫煙の機会を有する者の割合（家庭）		
				受動喫煙の機会を有する者の割合（飲食店）		

がんを予防し、早期発見・早期治療で、がんで亡くなる人を減らす

がんの発生リスクを下げる生活習慣の普及

20歳未満の者の喫煙防止、喫煙率の低下及び受動喫煙の防止による、がん罹患率の減少

がんの年齢調整死亡率（75歳未満 人口10万人対）

がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（胃）

がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（肺）

がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（大腸）

がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（女性乳房）

【1次予防：がんのリスクの減少】

（1）がん予防・がん検診の強化

③感染に起因するがん対策（ウイルス、細菌など）	3	啓発資材配布新規申込件数	3	感染に起因するがんの罹患率の減少	3	がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（肝）
		肝炎ウイルス検査数				がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（子宮頸部）
		肝炎コーディネーター養成者数				
		肝疾患相談センターの相談件数				
		子宮頸がん検診受診率				
		再掲 小中高等学校及び特別支援学校におけるがんを含めた健康教育の実施数				
①検診の受診率向上	4	受診率向上部会の開催状況	4	がん検診の受診率向上により、がんが早期発見され、進行した状態で発見される患者の減少	4	胃がん検診受診率
		がん検診と特定健診等同時受診を実施している市町村数				肺がん検診受診率
		休日・夜間検診体制をもつ市町村数				大腸がん検診受診率
		「がん予防重点健康教育及びがん検診実施の指針」に基づく検診実施率				乳がん検診受診率
②精度管理・検診従事者の資質向上	5	がん検診事業評価のためのチェックリスト80%以上遵守している市町村数	5	科学的根拠に基づく検診方法で、精密検査受診率を向上させ、がんを正確に発見する体制の徹底	5	再掲 子宮頸がん検診受診率
		京都府生活習慣病検診等管理指導協議会がん検診部会のホームページへの掲載状況				精検受診率（胃がん・バリウム）
		がん検診従事者研修会参加自治体数				精検受診率（胃がん・内視鏡）
		再掲 「がん予防重点健康教育及びがん検診実施の指針」に基づく検診実施率				精検受診率（肺がん）
						精検受診率（大腸がん）
						精検受診率（乳がん）
						精検受診率（子宮頸がん）
						がん発見率（胃がん・バリウム）
						がん発見率（胃がん・内視鏡）
						がん発見率（肺がん）
						がん発見率（大腸がん）
						がん発見率（乳がん）
						がん発見率（子宮頸がん）
						再掲 がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（胃）
						再掲 がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（肺）
						再掲 がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（大腸）
						再掲 がん種別年齢調整罹患率（人口10万対）（女性乳房）

C:分野別施策	番号	再掲	アウトプット指標 (施策目標)
①手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法の推進	6		京都府がん医療戦略推進会議の開催
			地域連携クリティカルパスの適用件数
			専門医療機関連携薬局(がん)の認定数
			全ての二次医療圏において、がん診療連携拠点病院による、地域の診療従事者を対象とした研修やカンファレンスを定期的に開催
②緩和ケア・支持療法の推進	7		緩和ケアチームの設置数
			緩和ケアチーム取扱患者数
			がん診療連携拠点病院における緩和ケア外来への地域医療機関からの新規紹介数
			がん診療連携拠点病院における緩和ケア外来の新規診察患者数
			拠点病院等における緩和ケア研修会(P E A C E)修了者数
			緩和ケア病棟が整備されている施設のある医療圏
			身体的、精神的、社会的苦痛に対する緩和症例数
③在宅医療の充実	8		かかりつけ医(がん対応力)向上研修会の開催
		再掲	全ての二次医療圏において、がん診療連携拠点病院による、地域の診療従事者を対象とした研修やカンファレンスを定期的に開催
④連携体制の強化	9	再掲	地域連携クリティカルパスの適用件数
		再掲	全ての二次医療圏において、がん診療連携拠点病院による、地域の診療従事者を対象とした研修やカンファレンスを定期的に開催
⑤小児がん及びAYA世代のがん対策	10		小児がん拠点病院・府主催の小児がんシンポジウムの開催
			がん相談支援センターを知っている人の割合
⑥がんゲノム医療の普及	11		がんゲノム中核拠点病院等が設置されている医療圏
⑦その他治療機能の充実	12		がん診療連携拠点病院においてリハビリテーションに携わる専門的な知識及び技術を有する医師が配置されている医療圏
			がん相談支援センターへの相談件数
			がんに対する情報提供施設の実態把握及びホームページ、冊子等での情報提供
			がん患者に医師が看護師と共同して診療方針について話し合った内容を提供する施設数
⑧新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装	13	再掲	がん相談支援センターへの相談件数

B:中間アウトカム(個別目標)	番号	再掲	指標
手術、放射線治療、薬物療法及び免疫療法の均てん化や治療水準の向上、連携の強化等による、安心して治療を受けることができる体制の強化	6		すべての二次医療圏にがん診療連携拠点病院を整備することができる体制の強化
緩和ケアチームの設置数	7		身体的なつらさがある時に、すぐ医療スタッフに相談できる人の割合
かかりつけ医(がん対応力)向上研修会の開催	8		がん医療の均てん化の実現
地域連携クリティカルパスの適用件数	9		がん医療の均てん化の実現
小児がん拠点病院・府主催の小児がんシンポジウムの開催	10		小児がん及びAYA世代のがん患者に対する診療体制、支援体制の強化
がんゲノム中核拠点病院等が設置されている医療圏	11		がんゲノム医療の情報提供体制の充実
がん診療連携拠点病院においてリハビリテーションに携わる専門的な知識及び技術を有する医師が配置されている医療圏	12		がん診療の質の向上・均てん化、希少がん・難治性がんの生存率向上
がん相談支援センターへの相談件数	13		治療選択についての情報提供の充実

A:分野別アウトカム(分野別目標)	番号	再掲	指標
患者本位の適切な医療を実現し、がん患者及びその家族の苦痛や精神的不安の軽減並びに療養生活の質の維持向上	2		がん5年純生存率
			現在自分らしい日常生活を送れていると感じる人の割合

C:分野別施策	番号	再掲	アウトプット指標 (施策目標)
①相談支援体制、情報提供体制の充実	14	再掲	がん相談支援センターの相談件数
			がん相談支援センターへのオンライン相談件数
			相談員体制、専門機関との連携
			関係機関との連携及び自院以外からの相談受入体制
			がん診療連携拠点病院等での患者サロンにおけるピア・サポーター養成講座修了者の活用の推進
②就労支援の強化	15		就労に関する相談体制
			アピアランスに関する相談に院内で対応する体制
		再掲	関係機関との連携及び自院以外からの相談受入体制
③社会的な問題への対応の充実	16	再掲	関係機関との連携及び自院以外からの相談受入体制
④小児・AYA世代、高齢者に対する支援の強化	17	再掲	小児がん拠点病院・府主催の小児がんシンポジウムの開催
		再掲	がん相談支援センターを知っている人の割合
			治療における患者さんの希望は尊重されたと感じる人の割合
⑤アピアランスケアについて	18	再掲	がん相談支援センターへの相談件数
⑥がん診断後の自殺対策について	19		つらい症状にすみやかに対応してくれたと感じる人の割合
		再掲	身体的、精神的、社会的苦痛に対する緩和症例数

B:中間アウトカム (個別目標)	番号	再掲	指標
がん及びがん治療に関連する情報提供体制の強化、患者一人ひとりに寄り添った相談支援の実施	14		ピアサポートの認知度
			がん相談支援センターの認知度
がんになっても仕事を続けるための相談支援体制の強化	15		就労支援相談件数
がん患者の社会的隔離への対応	16		自施設以外の患者、家族、地域住民からの相談件数
患者・家族等への支援の充実	17	再掲	がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分であるとを感じる人の割合
外見の変化に起因する苦痛の軽減	18		がん治療による外見の変化(脱毛や皮膚障害などを含む)に関する悩みを誰かに相談できた人の割合
がん診断後の自殺リスクへの対応	19		身体の苦痛や気持ちのつらさを和らげる支援を十分に受けることができたと感じる人の割合

A:分野別アウトカム (分野別目標)	番号	再掲	指標
がんになっても安心して暮らせる社会の構築	3	再掲	現在自分らしい日常生活を送れていると感じる人の割合

(3) がんとの共生社会の実現

C:分野別施策		番号	再掲	アウトプット指標 (施策目標)
④ これらを支える基盤の整備	①人材育成の強化	20	再掲	がん検診従事者研修会参加自治体数
			再掲	拠点病院等における緩和ケア研修会 (PEACE) 修了者数
	②がん教育・がんの正しい知識の普及啓発の推進	21	再掲	小中高等学校及び特別支援学校におけるがんを含めた健康教育の実施数
				きょうと健康づくり実践企業等がん検診受診率向上などの健康づくりに取り組む企業数
	③がん登録の推進	22		精度の高いがん登録の実施 (DCO割合)
	④患者・府民参画の推進	23		がんピア・サポーター養成講座の開催
⑤デジタル化の推進	24	再掲	がん相談支援センターへのオンライン相談件数	
⑥感染症発生・まん延時や災害時を見据えた対策	25		—	

B:中間アウトカム (個別目標)		番号	再掲	指標
がん対策における人材育成の強化によるがん専門医療人材のがん診療連携拠点病院等における適正な配置を実現		20	再掲	すべての二次医療圏にがん診療連携拠点病院を整備
がんの病態や予防・早期発見・治療、生命の大切さに関する教育の充実による、がんの正しい理解		21		「がんは誰もがかかる可能性のある病気である」に対して「正しい」と回答した割合 「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合
がん登録データを検診・がん対策の計画立案・評価等に活用、医療関係者・府民に利用しやすいデータの提供を推進		22		—
がん患者とその家族等を含む府民が、がん対策の重要性を認識し、がん医療に関する正しい理解を得て、医療従事者とも連携しながら、がん対策に主体的に参画する社会の実現		23		—
デジタル技術の活用等により、患者やその家族等の医療・福祉・保健サービスへのアクセシビリティを向上、医療機関等の効率的かつ効果的なサービスの提供を充実		24		—
感染症発生・まん延時や災害時等の状況下においても、必要ながん医療を提供することができる体制整備を推進		25		—

A:分野別アウトカム (分野別目標)		番号	再掲	指標
がんを予防し、早期発見・早期治療で、がんで亡くなる人を減らす			再掲	がんの年齢調整死亡率 (75歳未満 人口10万人対)
患者本位の適切な医療を実現し、がん患者及びその家族の苦痛や精神的不安の軽減並びに療養生活の質の維持向上		4	再掲	がん5年純生存率
がんになっても安心して暮らせる社会の構築			再掲	現在自分らしい日常生活を送れていると感じる人の割合